

検定制度変更のお知らせ

第15回ビジネス数学検定(2011年8月1日～9月30日)から検定の制度が変わります。

① 3階級制への移行

「ビジネス数学検定」は1000点満点のスコア制で行っていましたが、第15回検定から「ビジネス数学検定 Lite(ライト)」、「ビジネス数学検定 2級」、「ビジネス数学検定 1級」の3階級制に変更します。各階級の主な受検対象は以下のとおりです。

Lite : 新入社員・学生

社会人として必要な「数字を扱うスキル」の基本が身についている。

2級 : 入社3～5年目の社員

日常業務で生じる問題に対して的確に判断できるビジネス数学力を持ち、データに基づいたビジネスプランを提案できる。

1級 : 管理職

マネージャーとして活躍するのに十分なビジネス数学力を持ち、さまざまなビジネスシーンで生じる問題に対して的確に判断し行動できる。

※第15回検定の「ビジネス数学検定 Lite」と「ビジネス数学検定 2級」は
6月22日より先行開催をいたします。

② 評価方法の変更

「ビジネス数学検定」は、獲得スコアに対して「AAA」～「C」の9段階の格付けによる評価を行っていましたが、3階級制への変更に伴い、「合格」「不合格」による評価に変更します。

各階級とも100点満点で検定を行い70点以上で「合格」とします。

③ 問題数・検定時間の変更

問題数、検定時間を以下のように変更します。

Lite : 30問・60分 2級 : 30問・60分 1級 : 30問・90分

④ 検定料金の変更

検定料金を以下のように変更します。

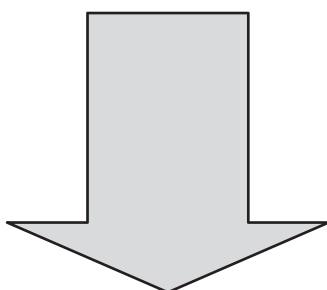
お支払い方法はコンビニエンスストア決済、または、クレジットカード決済となります。

Lite : 2,100円 2級 : 4,200円 1級 : 6,300円

変更内容のまとめ

旧検定（第14回ビジネス数学検定まで）

階級	受検対象の目安	問題数	検定時間	評価方法	検定料
スコア制	社会人全般	35問 (5者択一問題)	60分	1000点満点で検定を行い AAA～Cの9段階で格付け	8,400円



新検定（第15回ビジネス数学検定以降）

階級	受検対象の目安	問題数	検定時間	評価方法	合格点	検定料
Lite	新入社員・学生	30問 (5者択一問題)	60分	合格・不合格	70点 (100点満点)	2,100円
2級	入社3～5年目の 若手社員	30問 (5者択一問題)	60分	合格・不合格	70点 (100点満点)	4,200円
1級	管理職	30問 (5者択一問題)	90分	合格・不合格	70点 (100点満点)	6,300円

各階級の出題分野・出題内容

階級	出題内容	
Lite	把握力	グラフの把握（折れ線グラフ・棒グラフ・円グラフなど） 労働時間の把握・給料の把握・簡単なデータの把握 平均値の把握・時差の把握・集合の把握 など
	分析力	定価・利益の計算・売上高の計算・割合を用いた計算 金利の計算・為替差益の計算・仕入原価の計算 債券利回りの計算・税額（所得税など）の計算 など
	選択力	交通機関の選択・数値の比較による選択 スコアシートによる選択・割合を用いた選択 期待値による選択 など
	予測力	到着時刻の予測・平均を用いた予測 加重平均を用いた予測 一次関数・連立方程式を用いた予測 など
	表現力	折れ線グラフでの表現・棒グラフでの表現・円グラフでの表現 図表の適切な使用法・関数のグラフ表現 バブルチャートによる表現 など
2 級	把握力	簡単なデータの把握・平均値の把握・時差の把握 集合の把握・論理的な文章把握 グラフからの相関関係の把握・商品の位置づけの把握 など
	分析力	金利の計算・為替差益の計算・仕入原価の計算 債券利回りの計算・税額（所得税など）の計算 損益分岐点分析・財務諸表分析 など
	選択力	スコアシートによる選択・割合を用いた選択 確率や期待値による選択・株式投資 財務諸表分析や投資指標を基にした選択 など
	予測力	平均変化率を用いた予測 一次関数・連立方程式を用いた予測 データに基づいた業績の予測 など
	表現力	図表の適切な使用法・関数のグラフ表現 バブルチャートによる表現・レーダーチャートによる表現 三角グラフによる表現・ベン図による表現
1 級	把握力	集合の把握・論理的な文章把握 グラフからの相関関係の把握・高度な統計処理 作業工程の把握・品質管理 など
	分析力	損益分岐点分析・財務諸表分析 キャッシュフロー現在価値分析（DCF法・NPV法・IRR法） クリティカルパス分析・ポートフォリオ分析 など
	選択力	確率や期待値による選択・株式投資 財務諸表分析や投資指標を基にした選択 デシジョンツリーを用いた選択・ゲーム理論 など
	予測力	加重平均を用いた予測・相乗平均を用いた予測 など 統計に基づく予測・複数のデータに基づく予測 マクロ経済学に基づく予測・ミクロ経済学に基づく予測 など
	表現力	バブルチャートによる表現・ベン図による表現 対数グラフによる表現・統計分析の結果の表現 三次元グラフによる表現 など